

小学6年生2号

国語

1. 個人コードと氏名などを、解^{かい}答^{とう}用紙に正しく記入しなさい。
2. 答えはすべて解^{かい}答^{とう}用紙に記入し、解^{かい}答^{とう}用紙だけ提出しなさい。
3. 答えは特別^{とくべつ}の指示があるもののほかは、ア、イ、ウ、……の中から適^{てき}切^{きやう}なものを一つだけえらびなさい。

1 次の問いに答えなさい。

(1) 次の――線部の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- ① 眼科^{しやく}で視^し力^{りき}を調べる。
- ② 台風で屋根が破損^{はさん}する。
- ③ リーダーがチームを統制^{とうせい}する。
- ④ となりとの境^{かい}にへいを建てる。
- ⑤ 新しい生活に慣^なれる。

2

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい（字数の指示がある問いは、「。」や「、」や、「かぎかつこも一字として数えます）。

＊この国の景色には、自然が作った美しさがそのまま残っている。晴れた日に青空のもとで見る氷河は①息をのむ景色だし、けわしい山と深い谷と氷が織りなす美しさはたとえようもない。

日本によく見られるような、②なだらかで草や木が生えている山は、この国にはない。地球の歴史から見れば生まれたてのこの国では、できてからまだ日が浅い山しかないからだ。山が作られてから長い年月がたつあいだに雨や風が山をけずっていつて、山はしだいに角を失ってなだらかになる。またけずられた岩から土ができて、山がしだいに土でおおわれて、そこに草や木が生えるのだ。

③するどい角を持っている山が多く、谷もけわしいために、この国には滝が多い。いちばん大きい滝はこの国の南西部にあるガルフォスの滝だ。水の勢いが強くて、はげしいしぶきをあげて落ちている。

このほかに「間欠泉^{かんけつせん}」という不思議な温泉もある。この国の首都から車で二時間ほどかかるゲイシルというところにある。五く六分に一度ず

(1) ①息をのむ の意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア ゆっくりと息をはく。

イ おどろいて息をとめる。

ウ 息をがまんして静かにする。

エ 息づかいがはげしくなる。

(2) ②なだらかで草や木が生えている とありますが、このような景色はどのようにしてできますか。それを説明しているひとつづきの二文をさがし、はじめと終わりの五字を書きぬきなさい。

(3) ③するどい角を持っている山が多く、谷もけわしい とありますが、それはなぜですか。次の文の□にあてはまる言葉を、十二字で書きぬきなさい。

●この国は地球の歴史で見ると生まれたてであり、□しかないから。

(4) ④温泉を五〇く六〇メートルの高さに吹き上げる とありますが、これによりどんなことがわかりますか。十二字で書きぬきなさい。

(5) □にあてはまる言葉として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア だから イ なぜなら

ウ しかし エ さて

(2) 次の――線部のひらがなを漢字に直して書きなさい。

- ① 病院でけんさを受ける。
- ② 自然ほごの運動をする。
- ③ 国語のせいせきが上がる。
- ④ ひたいを集めて相談する。
- ⑤ 羊のむれを番犬が見守る。

つ、腹にひびくごう音とともに④温泉を五〇く六〇メートルの高さに吹き上げる。いかにも地熱地帯らしい、地下のエネルギーの大きさをあらわす景色である。間欠泉は世界各地の地熱地帯にもあるが、日本では宮城県の鬼首温泉のものが有名で、北海道渡島半島の鹿部温泉にもある。□ゲイシルは世界一の規模だ。

ゲイシルというこの国の言葉は、英語やドイツ語など各国の言葉で間欠泉をあらわす言葉になっている。⑤これは地震が起きたときに発生する「津波」が世界中で「ツナミ」とよばれるようになったのと同じだ。世界一の間欠泉があるこの国の言葉や、世界でも有数の地震国である日本の言葉が、世界で通じるようになったのである。

＊この国Ⅱアイスランド。
(島村英紀『地震と火山の島国』より)

＊地熱地帯Ⅱ地下が高温であるため、温泉や高温ガスの噴出などがみられる場所。火山の周辺に多い。

(6) ⑤これ とありますが、どのようなことを指していますか。次の文の□にあてはまる言葉を、四字で書きぬきなさい。

●□が、世界中で間欠泉をあらわす言葉として通じるようになったこと。

(7) ⑥津波、⑦ツナミ とありますが、この二つにはどのような意味のちがいがありますか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 「津波」は書くときの言葉、「ツナミ」は話すときの言葉というちがい。

イ 「津波」は日本語で、「ツナミ」は英語やドイツ語の言葉というちがい。

ウ 「津波」は世界で通じる言葉で、「ツナミ」は日本語の言葉というちがい。

エ 「津波」は日本語の言葉で、「ツナミ」は世界で通じる言葉というちがい。

(8) この文章の内容にあてはまるものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「この国」は地熱地帯にあるので気温もたいへん高い。

イ 「この国」に滝が多いのはこの国の地形と大きなかわりがある。

ウ 世界各地の地熱地帯ではかならず「間欠泉」を見ることができる。

エ 日本にある「間欠泉」は宮城県の鬼首温泉のものがいちばん大きい。

3 次の問いに答えなさい。

(1) 次の語句の意味をあとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

① ゆだねる

② たけなわ

ア 人にまかせる

イ 火を通す

ウ 平均である

エ さかんな時

オ 適当に作る

カ 腹をたてる

4 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい（字数の指示がある問いは、「。」や「、」や、「かぎカッコも一字として数えます」）。

二十人ほどの画塾がじやうの生徒のなかに、ひとりかわった子がいた。彼かれには奇妙きみょうな癖くせがあり、なにを描かいてもきっちり数字を守らねば気がすまなかった。学校から遠足に行くと、何人参加して何人休んだかということをおぼえておいて、つぎに画えを描くとき、それをそのまま再現するのである。五十三人なら五十三人の子供こどもが山をのぼるところを彼はひとりずつ指折りかぞえて描きこむものだから、この子が遠足を描くんだといいだと、ぼくは一メートルも二メートルもつぎたした紙を用意してやらねばならない。

ある日、彼は兄といっしょに小川で＊かいぼりをした。そして、その翌日、②酔よったままぼくのところへ紙をもらいにきたのである。おむすび型をした彼の頭のなかでは二十七匹ひきのエビガニが足音たててひしめいていた。

「お兄ちゃん、二十七匹だぜ。エビガニが二十七匹だぜ！」

彼はぼくから紙をひったくると、うつとりした足どりでアトリエ＊の隅すみへもどってゆき、床ゆかにしゃがみこむと、鼻をすすりながら画を描きだした。彼は一匹描きあげるたびにため息ついて筆をおき、近所の仲間にそのエビガニがほかの一匹とどんなにちがっていたか、どんなに泥穴どろあなの底からひっぱりだすとおかしげに跳ねまわったかと③雄弁ゆうべんをふるった。

「……なにしろ肩かたまで泥ンなにかかったもんなあ」

彼はそういつて、まだ爪つめにのこっている川泥を④鉛筆えんぴつのさきでせせり

(1) ① 奇妙な癖 とありますが、どんな癖ですか。次の文の a .

b にあてはまる言葉を、それぞれ二字で書きぬきなさい。

● a を守らないと気がすまなく、遠足などに行くと、人数をそのまま b して描く。

(2) ② 酔ったまま とありますが、どういう様子を表していますか。次の文の にあてはまる言葉を、四字で書きぬきなさい。

● を見つけたときの興奮こうふんがさめていない様子。

(3) ③ 雄弁をふるった とありますが、「彼」のどういう様子を表していますか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 何となく元気がなく、ため息をつきながら話している様子。

イ みんなに理解してもらおうと、わかりやすく説明している様子。

ウ うまく説明できなくなって、いらいらしている様子。

エ ほこらしげに、次から次へと話している様子。

(4) ④ 鉛筆のさきでせせりだしてみせた とありますが、このときの「彼」の気持ちとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 得意

イ とまどい

ウ おどろき

エ ためらい

(2) 次のことわざの に入る漢数字を、それぞれ一字で答えなさい。

① 一を聞いて を知る

② 階から目薬

だしてみせた。仲間はおもしろがって三人、五人と彼のまわりに集まり、口ぐちに自分の意見や経験をしやべった。アトリエの隅はだんだん黒山だかりに子供が集まり、騒さわぎが大きくなった。

すると、それまでひとりぼっちで絵筆をなぶっていた⑤太郎たろうがひい」とたちあがったのである。みていると彼はすたすた仲間のところへ近づき、人だかりのうしろから背せのびしてエビガニの画をのぞきこんだ。しばらくそうやって彼は画をみていたが、やがて興味を失ったらしく、いつもの遠慮えんりょぶか深げな足どりで自分の場所へもどっていった。ぼくのそばを」とりながらなにげなく彼のつぶやくのが耳に入った。

「スルメで釣つればいいのに……」

⑥ ぼくは小さな鍵かぎを感じて、子供のために練っていたグワツシュの瓶びんをおいた。ぼくは太郎のところへゆき、いっしょにあぐらをかいて床にすわった。

「ねえ。エビガニはスルメで釣れるって、ほんとかい？」

ぼくは⑦ 単刀直入にきりこんだ。ふいに話しかけられたので太郎はおびえたように体を起こした。 (開高健『裸の王様』より)

＊かいぼりⅡ池などの水をくみ出して、中の魚をとること。

＊アトリエⅡ画家などの仕事部屋。「ぼく」は、そこで子供たちに絵を教えている。

＊グワツシュⅡ絵の具。

(5) ⑤ 太郎がひい」とたちあがったのである とありますが、太郎が

たちあがったのはなぜですか。次の文の にあてはまる言葉を、

六字で書きぬきなさい。

● をのぞきに行こうと思ったため。

(6) ⑥ ぼくは小さな鍵を感じて とありますが、この表現は、「ぼく」があることの手がかりをつかんだことを表しています。どんなことの手がかりですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア エビガニをスルメで釣ること。

イ 太郎の心を開くこと。

ウ 太郎に「彼」の話をさせること。

エ 子供たちをまとめること。

(7) ⑦ 単刀直入にきりこんだ とありますが、どんな様子を表していますか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 「ぼく」が太郎に前置きなしに問いかけている様子。

イ 「ぼく」が太郎に遠まわしにたずねている様子。

ウ 「ぼく」が太郎の話を熱心に聞こうとしている様子。

エ 「ぼく」が太郎にきびしく問いただしている様子。

(8) この文章で、場面の中心人物が変わるのはどこからですか。はじめの五字を書きぬきなさい。